

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	2011/11/21 13:00～16:00	3時間	6人	(1) この講座の目的 (2) 自己主導型学習、学習者オートノミー、セルフアクセス、アドバイジング、『日本語ポートフォリオ』 (3) 「教えない」「評価しない」という表現の意味するところ (4) アドバイザー『「できますリスト」 (5) 実習のやり方	大阪大学大学院教授 青木直子
②	2011/11/28 13:00～16:00	3時間	6人	(1) 「できますリスト」に追加(すいません...) (2) アドバイジングの目的 (3) アドバイジング・セッションの構造 (4) アドバイジングの言葉 (5) 『日本語ポートフォリオ』 (6) 実習のやり方	大阪大学大学院教授 青木直子
③	2011/12/12 13:00～16:00	3時間	6人	学習者に1～2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に実習の振り返りとフィードバックを行う。	コミュニケーション学院非常勤講師(本務外) 内田さつき
④	2011/12/19 13:00～16:00	3時間	6人	(1) 実習はどうでしたか? (2) いい質問の仕方 (3) 目標の種類 (4) 学習計画とは何か (5) 1月16日の実習	大阪大学大学院教授 青木直子
⑤	2012/2/27 13:00～16:00	3時間	6人	学習者に1～2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に実習の振り返りとフィードバックを行う。	コミュニケーション学院非常勤講師(本務外) 内田さつき
⑥	2012/1/16 13:00～16:00	3時間	6人	学習者に1～2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に実習の振り返りとフィードバックを行う。	コミュニケーション学院専任講師(本務外) 竹田悦子
⑦	2012/1/23 13:00～16:00	3時間	6人	(1) 実習について(目標についてふたたび) (2) 学習計画の検討 (3) アドバイジングの構造再び (4) 1月30日と2月6日の実習	大阪大学大学院教授 青木直子
⑧	2012/1/30 13:00～16:00	3時間	6人	学習者に1～2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に	コミュニケーション学院専任講師(本務外)

				実習の振り返りとフィードバックを行う。	竹田悦子
⑨	2012/2/6 13:00~16:00	3時間	6人	学習者に1~2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に実習の振り返りとフィードバックを行う。	コミュニカ学院専任講師(本務外) 竹田悦子
⑩	2012/2/13 13:00~16:00	3時間	6人	(1) 実習について(問題はどしたら解決できるのか?) (2) アドバイザーに必要な知識 (3) 今後の実習について	大阪大学大学院教授 青木直子
⑪	2012/2/20 13:00~16:00	3時間	6人	学習者に1~2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に実習の振り返りとフィードバックを行う。	コミュニカ学院専任講師(本務外) 竹田悦子
⑫	2012/3/5 13:00~16:00	3時間	5人	学習者に1~2時間の学習アドバイジングを行う。実習後に実習の振り返りとフィードバックを行う。	コミュニカ学院非常勤講師(本務外) 内田さつき

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

1. この講座の良かったところは何ですか？

- ・アドバイジングの理論と実習の両方を勉強することができたこと
- ・学習アドバイザーについてこの講座を受講したことによって初めて知ったこと。それによってアドバイジングのやり方も実習で少し分かったこと
- ・本講座を受講する以前に参加したアドバイジングのワークショップでは「アドバイジングとは何か」についてまったく理解できなかったのだが、今回の受講でそれが理解できたこと
- ・“アドバイザー”の役割の実際と、自分自身の性格や能力についての発見があったこと
- ・実習が繰り返されたこと
- ・講義よりも実習が多くあったこと
- ・中身の濃い講義と実習ができたこと
- ・少人数だったこと
- ・学習者を中心に日本語学習とは何かを考えることができたこと
- ・本を読むことによって詳しく理解できたこと
- ・オートノミーという分野と効果について少しずつだが理解できたこと

2. もう一度この講座をするとしたら、変えたほうがよいところがありますか？

- ・養成講座の場所を三宮以外でも。遠くの人にはなかなか参加しにくいと思った。
- ・曜日・時間帯を変える。それによって今回都合の悪い人も参加できるのではないかと。
- ・実習に参加してくれた学習者が、自ら進んで参加してくれていたのかどうか……。実

- 習が2回目になると欠席する協力者が多かったことが気になっている。
- ・今回の実習相手は、みんな学生で、目的を持っているので、アドバイザーがすることはあまりなかった。実習の学習者を変えたほうがいいのではないかなと思う。

3. この講座で学んだことは何ですか？

- ・アドバイジングは地域の日本語教室でも有効なこと。
- ・ポートフォリオを使って、より具体的な目標を決定して、その結果を検証する、という手法。
- ・学習の手段は、与えられるよりも学習者自らが見つけられれば、学習発展の大きな推進力のもととなる。
- ・第2言語を学ぶことで、社会的アイデンティティを作り上げていくこと。
- ・学習者の話を、まずは聞くことの大切さ。
- ・質問する力、聞く力など、アドバイザーとして必要な技術や知識が山ほど必要なこと。そして経験が必要なこと。
- ・アドバイジングのやり方。主に学習者とのやりとりの中でどういう質問をしたらいいのか、どうやって掘り下げて質問をしていくかなどについて学んだ。
- ・言葉とはなんぞや！一人で勉強できるかもしれないが一人で使うものではない。

4. もう一度この講座を受けるとしたら、自分の取り組み方で変えたいことはありますか？

- ・学習者の沈黙の時間を大切にす。学習者の考えを待つ。自分の提案する学習方法が良いと思いき過ぎない。人によって勉強の仕方が違うので注意する。
- ・アドバイザーの知識を増やしておく。2012年2月13日に頂いた参考文献リストを参考にす。これはすぐにできることではないので時間をかけて増やしておきたい。
- ・質問力を育てておく。普段の日常会話でも、意識しているのといないのでは随分違ってくると思う。
- ・もっといろいろ勉強し、学習者にアドバイジングできる知識を身に付け、実習に臨むことができたと思う。
- ・学習者の相手をするに先立って、アドバイザー自身の学習目標と分析をする機会があつたが、その意味が今ひとつ分からないで行なつた。何か今になつてもじっくりしないところがある。その目的・意義をもう少し考えて取り組むようにしたい。
- ・より積極的な受講。

5. 全体として満足していますか？ それは、なぜですか？

- ・満足している。
- ・改めて言葉を多方面から考えることができた。ボランティアでは言葉以外の相談事も多いので。

- ・学習者の視点に立った学習方法は、地域の日本語講座では必要なものだと思う。その自己学習をサポートするための理論と実習を経験できたことは大きな成果だった。(ただし、この講座は受講後のサポートが必要だと思う。どういう形でこの講座を活かしていくのか。受講生にはまだまだ課題が多く、サポートが必要。)
- ・満足している。それは学習アドバイザーについて知ることができたから。
- ・一応こんなものだろう。継続的な形態はないのだろうか。
- ・100点中60点。セルフアクセス、オートノミーのノウハウを、他の様々な場面で応用・利用することは可能で、また、されるべきだが、語学学習者に対してストレートに使用できる場が未だないということが最大の不満。(3時間×12回の成果、それを発揮する機会はあるか?)

以上

② 実施主体からの研修内容結果評価

講義と実習が交互に行われるカリキュラムで実施したことで、講義内容(知識)と実践を有機的に関連付けて理解できたものと思われる。しかし、講義は高度な内容を扱っており、とりわけ、言語学習に関する専門的な知識は、本講座の回数では十分であるとは言いがたいため、知識を増やすためのリソースや方法を明確に示すことで、自ら学んでいくための道筋は作れたと言える。実習については、時間数を当初の企画案より増やして、実習時間にあてたことで、はじめの2回は、アドバイザーが聞きたいことを聞いていたり、アドバイザーの話す時間が多かったりしたが、3回目以降は、徐々に学習者の声を聞き、話が横道にそれないように改善されていった。個人差はあるが、学習アドバイジングの初歩的な実践力はついたと考える。今後は、アドバイジングのための知識を増やし、実践を重ねることでスキルが磨かれるものと期待できる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

受講修了生には、所属の教室でアドバイザーとして活躍してもらい、学習アドバイジングによる日本語学習の普及を図りたい。そのため、近郊の日本語教室等に学習支援のサポートとしてアドバイザーの存在を周知し、本講座受講生とのマッチングを行いたい。

受講生の一人が講座受講をきっかけに、所属する三田市国際交流協会ボランティア教室での学習アドバイジングの導入を進めているため、当教室のボランティアのための講座とサポートを次年度より行うこととした。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

ひょうごボランティアネットの実務者会議での取り組みの報告と学習アドバイジングに関する周知を行い、外国人支援体制作りの一環とした。

② 研修後の人材活用

受講生が現在活動しているボランティア教室でのアドバイジングの実施。

(12) 今後の課題

学習アドバイジングを普及するには、これまで3期に渡り行った講座受講生のその後の活動状況を把握する必要がある。そのため、活動状況の把握と地域での学習アドバイジングという形態の認知度・普及度を調査する必要がある。

講座の募集にあたり、プロの日本語教師からの受講申し込みが複数あった。応募要件(ボランティア)にあわないため、不採用としたが、プロの教師は学習に関する専門知識も多く、ボランティア教室でのアドバイジングに貢献できる存在でもある。次年度以降は、日本語教育の専門家を対象に、日本語教師が地域貢献としてボランティア教室で学習アドバイジングが行えるようにするための講座を検討する必要がある。

以上